オリックス生命・広域大阪支社

代理店対象に営業力向上セミナーを開催
中瀬氏が「新時代の法人提案」と題し講演

オリックス生命・広域大阪支社では8月6日午後2時から、大阪・本町のTKP大阪本町カンファレンスセンターで、同社を取扱う代理店店主ら約60名参加のもと、「保険セールスパーソンのための営業力向上セミナー」を開催した。

最初に担当支社長から、同社での今後の法人販売について、顧客の3大ニーズの死亡、貯蓄、医療のうち、貯蓄部分は資産計上をベースに、死亡、医療を掛捨てで必要な期間、額だけ準備する、資産形成と保障を区分けした提案を行っていく。また、税制に左右されない生命保険本来の機能の活用により経営者の相続、事業承継を網羅した終身保険の提案を行っていき、法人向け提案をきっかけに経営者個人の資産形成を支援し、さらには従業員個人マーケットへの展開についても代理店をサポートしていく考えであることを伝えた。

中瀬氏

セミナーは講師のインシュアランスネットサービス中瀬敏代表が「新時代の法人提案」と題して講演。

これまでの法人保険の全損否認の流れ等を振り返った後、注目されている2分の1養老（ハーフタックスプラン）について触れ、個人的見解としたうえで福利厚生プランだけが2分の1損金が認められているか理由がはっきりせず、将来的に規制が入る可能性があるのではないかと自身の考えを示した。

そして、これまで販売された節税商品の「出口戦略」として、早ければ3年ほどで返戻率のピークを迎え、ピーク時にはほとんどが解約となることが予想されるが、雑収入となって課税された場合、もともと100が90返戻されそれに対して税金が3割とすると60になる。保険に加入しなければ100に対して税金3割で70だったが結果10減っているという事実がある。商品によって対策は変わってくるが短期でピークがくるものは目減り分を運用で増やして取り戻す『資産売り』が主流とならざるを得ないと力説。運用で100%を超える商品を勧めることが肝要とし、オリックス生命の「Candle（米ドル建終身保険）」を例に、具体的な数値で経営者へのアプローチポイントを為替リスクへの応酬話法等を含めアドバイスした。

セミナーの模様

また、セールスプロセスを検証して弱み強みを洗い出して強化すべきところを見極めることや、顧客接点の機会を増やすマーケティング、顧客が会いたいと思う自己ブランディングの重要性など自身の経験から培ったたくさんのノウハウ、ヒントを提供、参加者にとり有益なセミナーとなった。

2019年国連責任投資原則による年次評価

日本生命
4分野で最高評価

日本生命では、2018年の活動を対象とした2019年の国連責任投資原則（以下「PRI」）による年次評価において、「戦略とガバナンス」「上場株式の投資プロセス」「上場株式のアクティブオーナーシップ」「不動産投資」の各分野で、最高評価の「A+」を獲得したことをはじめ、全ての分野においてPRI署名機関中央値を上回る評価を獲得した。

PRIは、持続可能な社会の実現を目的とし、機関投資家等が環境（E：Environment）、社会（S：Social）、ガバナンス（G：Governance）の課題を投資の意思決定に組込むことを提唱する原則である。署名機関数は、世界で2517機関、うち日本で74機関（19年7月末時点）となっている。

PRIの年次評価は、PRI署名機関を対象に、PRIが責任投資の実施状況等分野ごとの得点率に応じて、6段階で評価するもので、「A+」が最高評価となっている。

日本生命はこれまでも、生命保険事業の使命や公共性をふまえ、環境や地域・社会と共生し、経済・企業と安定的な成長を共有していくことにも留意しながら資産運用に取組んでおり、17年3月のPRI署名以降、特にESG投融資を強化してきた。

今後も、社会公共性・投資収益性をふまえ、契約者利益の一層の拡大に努めるとともに、持続可能な社会の形成に寄与していく。

▼日本生命の評価（カッコ内は署名機関中央値）
- 戦略とガバナンス：A+（A）
- 上場株式の投資プロセス：A+（B）
- 上場株式のアクティブオーナーシップ：A+（B）
- 債券投資：A（B）

※債券投資は、国債等・社債（金融・非金融）の平均を表示
- 不動産投資：A+（B）

日本生命、唾液がん検査サリバテック社に出資

日本生命は、慶應義塾大学先端生命科学研究所発の株式会社サリバテック（砂村眞琴代表取締役）に対してシリーズ（C）で出資してきた。

今回の出資により、唾液を数滴採取するだけで、体に負担をかけず、安価で気軽にどこでもがん（現在、肺がん、膵がん、大腸がん、乳がん、口腔がんの5つ）リスクを一度に測定できる検査技術の開発を支援すること、およびその検査技術を広めることが可能となり、がんの予防意識向上や早期発見への貢献ができるとしている。

所定の無料ウオーキングアプリで1日8000歩以上歩いた契約者を対象に、抽選で検査キットが当たるサービスを開始予定である。